

## 「水戸学の道」 フォトスポットと うまいもん



水戸黄門助さん格さん像



水戸市のフォトスポットとして有名な、助さん、格さんを従えた水戸黄門像。水戸駅北口にあり、多くの観光客がこの像の前で記念写真を撮る。

白壁堀



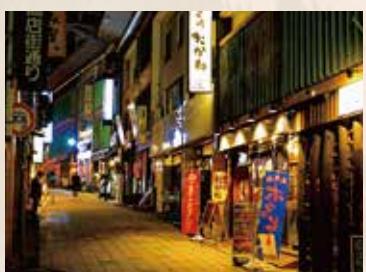
二の丸付近では水戸城跡の整備が完了し、美しい白壁堀による歴史的景観を楽しむことができる。夜は幻想的にライトアップされる。

水戸東武館



水戸藩の武芸を一貫する特徴である「文武不岐」を掲げ、北辰一刀流や新田宮流抜刀術などの武芸を伝えている。1874年設立。

宮下銀座商店街



水戸東照宮の下にあり、多彩な飲食店などが軒を連ねるレトロでディープな商店街。

昭和期から続く老舗や若い世代による新しい店が混じり合い、古き良き風情と未来への活気が共存する独特的な雰囲気が醸し出されたエリアとなっている。その独特な雰囲気から、近年ではフォトスポットとしても人気を博している。

2022年には、「目の前で落語を楽しみ、水戸を笑いに溢れた街にしたい」という想いから水戸で初めての常設の寄席「水戸みやぎん寄席」が開かれた。



▲宮下銀座商店会  
ホームページ

納豆



昔、水戸は水害が多く、それを避けるため、早生品種である小粒の大豆が多く栽培されていたことから、小粒であることが水戸の納豆の特徴である。

1889年の水戸鉄道開通によって、旅行客で賑わっていた水戸駅前広場で始まった観光土産品としての納豆販売から全国に知られ、今では水戸の代名詞となっている。

2022年には、納豆の消費拡大を図る活動を強化していくため、7月10日を「納豆の日」に制定することを盛り込んだ条例が水戸市で制定された。



▲「納豆のまち水戸 攻略ガイド」  
(水戸市ホームページ)

発行:水戸市観光課 029-224-1111(代)



水戸学は、水戸藩主徳川光圀公（水戸黄門）の「大日本史」編纂が始まりとされる。江戸時代後期には、斉昭公らが天皇のもと国全体で諸外国に立ち向かう「尊王攘夷」論を示した。藩を超えて国家的視野から様々な課題に対応する理念が、明治維新や近代日本の形成に大きな役割を果たした。

